みやぎの市町村レビュー

大河原町

1．位置・面積

大河原町は、宮城県の南部に位置し、仙台市からの距離は36km程度、面積は25.01km²（県内44市町村中41位：合併した自治体の計数は旧市町村の合計値、以下同じ。）となっています。

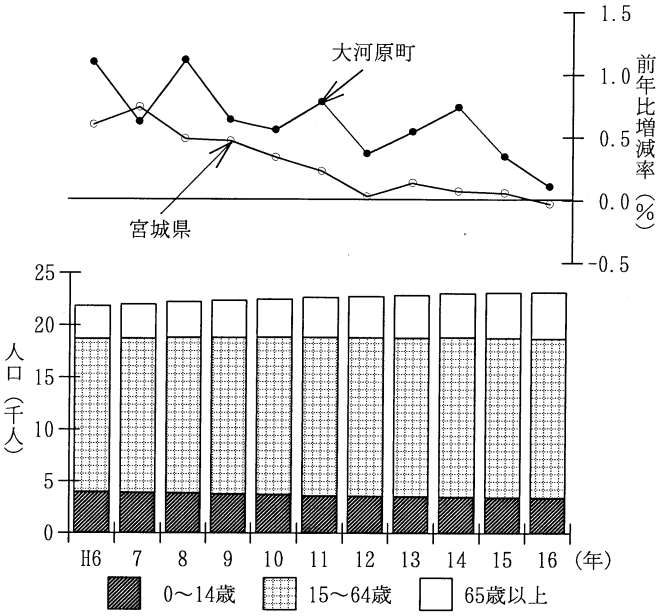
2．人口動向

大河原町の人口（平成16年）は、23,165人であり、県内44市町村中20位となっています。

平成6年以降の人口の推移をみると、仙台市への通勤圏として住宅団地の造成が進んだことなどから、増加傾向で推移しています。平成6年対平成16年の人口の増減状況を市町村別にみると、この間に人口が増加したのは14市町となっていますが、当町は人口増加率が大きいほうから数えて9位となっています。

また、年齢階層別人口（平成16年）をみると、年少人口（0～14歳）が3,424人（構成比：14.8%）、生産年齢人口（15～64歳）が15,280人（同66.0%）、老年人口（65歳以上）が4,461人（同19.2%）となっています。

大河原町の人口の推移



注）各年10月1日現在。
資料：総務省「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

3．産業構造

大河原町の町内総生産額（平成14年度）は719億円であり、県内44市町村中20位となっています。

大河原町の町内総生産額を産業別にみると、サービス業が178億円と最も多く、次いで不動産業（104億円）などとなっています。

また、産業別生産額の構成比を宮城県と比べてみると、金融・保険業（7.4%）やサービス業（24.8%）のウェイトが高い一方、製造業（9.2%）や運輸・通信業（6.5%）のウェイトが低い状況となっています。

大河原町の産業別市内総生産額（平成14年度）

	実額（億円）		構成比（%）	
	大河原町	宮城県	大河原町	宮城県
農業	7	1,114	1.0	1.3
林業	0	52	0.0	0.1
製造業	66	13,095	9.2	15.5
建設業	36	5,221	5.0	6.2
卸売・小売業	101	12,490	14.0	14.8
金融・保険業	53	4,143	7.4	4.9
不動産業	104	12,103	14.4	14.3
運輸・通信業	47	7,177	6.5	8.5
サービス業	178	17,364	24.8	20.5
公務・その他	127	11,861	17.7	14.0
合計	719	84,620	100.0	100.0

注）宮城県の総生産額は各市町村の合計値（当部集計）。
資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」、
仙台市「仙台市の市民経済計算」

4．市町村民力

大河原町の民力（平成17年）をみると、経済社会活動の総合力を表す基本指数は96となり、県内45市町村中20位（平成17年4月時点）となっています。成長性を表す同増加指数（10,213）は人口や世帯数の増加を映じて10位となっています。

また、総合的な産業力を表す産業活動指数（95）は20位となっています。また、同増加指数（9,894）は製造業従業者数の減少などを要因として26位となっています。内訳では、商業・サービス業指数（104）が15位となっている一方、製造業・建設業指数（84）が27位、農業・漁業指数（45）が40位となっています。

また、商業・サービス業指数の増加指数（11,429）はサービス業従業者数の増加などを要因として4位となっています。

大河原町の民力（平成17年）

		指数	順位
基本指数		96 (10,213)	20 (10)
産業活動指数		95 (9,894)	20 (26)
	農業・漁業指数	45 (10,227)	40 (12)
	製造業・建設業指数	84 (7,925)	27 (42)
	商業・サービス業指数	104 (11,429)	15 (4)
生活環境指数		53.5	19
	生活基盤指数	50.5	21
	医療・安全指数	54.7	16

注1）（　）内は増加指数。順位は45市町村中。
2）基本指数は人口や市町村内総生産など6指標、産業活動指数は農業産出額や製造品出荷額等、卸売・小売業販売額など15指標、生活環境指数は下水道普及率や人口一万人当たり医師数など8指標を合成し作成。基本指数、産業活動指数は市町村合計=10,000とした万分比、増加指数は平成12年対平成17年の増加倍率（市町村平均=10,000）。生活環境指数は市町村平均=50とした標準得点（偏差値）。

資料：当行「平成17年宮城県内市町村民力」

5．地域資源と温故知新 ～「大高山神社・ロマンに満ちた史跡のまち」～

大河原町中心部を東西に流れる白石川沿いには、有名な一目千本桜の並木が連なっていますが、その西端には延喜式内社・大高山神社が鎮座しています。境内には奥州藤原氏最後の領主藤原泰衡の弟忠衡が寄進した鉄九輪塔が建立されています。また、古くは今の位置より北東に2kmほど離れた馬取山付近に社地がありましたが、その旧社地の社前は、西暦1189年、藤原泰衡の兄国衡が奥州合戦で鎌倉軍に討たれた場所であるなど、同神社には奥州藤原氏の盛衰にまつわる数々のエピソードが残されています。

一方、拝殿には祭神・日本武尊（やまとたけるのみこと）の伝説にかかわる白鳥の絵馬などが奉納されており、いにしえのロマンを彷彿とさせるものがあります。

現在では毎年8月に夏祭が、10月に秋の例大祭が催され、地域の小学生をまじえて伝統の堤神楽が奉納されているなど、伝統文化の伝承や地域のコミュニティーセンターとして重要な役割を担っています。また、町内には嶋館古墳など多くの古墳群が残されていますが、10年程前からは、地元の小学生を対象に、大高山神社や古墳群など町内の史跡を訪ね歩く「文化財めぐり」が毎年開催されており、まちの将来を担う子供たちの地域学習の一環としても活用されています。

大河原町には、大高山神社などのロマンに満ちた数々の史跡が残されています。こうした貴重な地域資源を地域のランドマークやエコミュージアムとして、より積極的に利活用していくことを期待したいと思います。

大高山神社本殿

藤原忠衡が寄進した鉄九輪塔

大高山神社夏祭りの様子